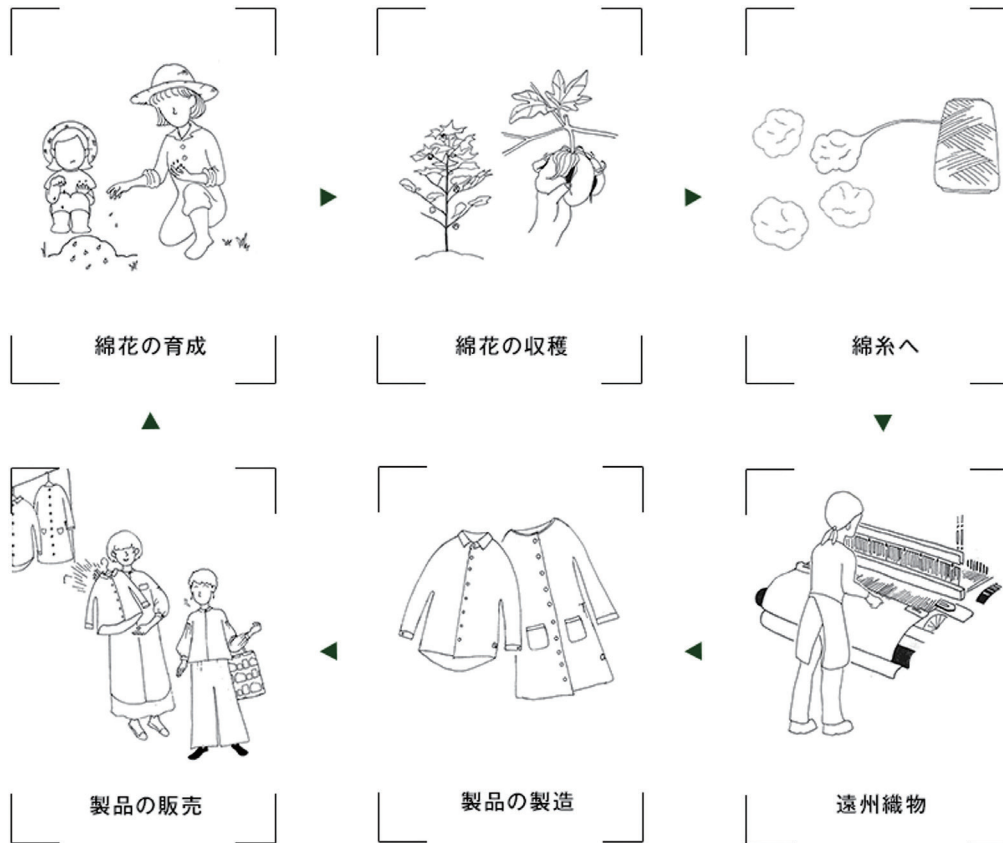
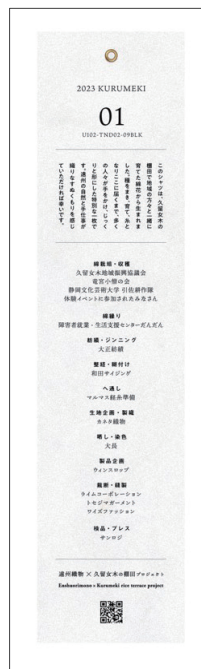


ビジネスモデルの概要



- ・ 綿花栽培は久留女木地域振興協議会へ委託。委託契約は、収穫量に対する「買取型」ではなく、面積あたりの年間栽培費用を支払う「単位面積型」の事業委託とすることで、受託耕作者にとってリスクが低く、棚田の安定的な保全運営に繋がるビジネスモデルとしている。
- ・ 休耕田を活用した綿の栽培は耕作放棄地の再生からはじめ、一般消費者を募集して、種まき・収穫・綿繰り等の体験型イベントを実施。
- ・ 製作したアパレル製品を全国で販売。また、収穫後採取した種は翌年棚田に撒き、継続的に栽培と収穫を行う。

製品下げ札について



- ・「生地になるまでの工程」を伝えるため製品下げ札にサプライチェーンを明記。

(下げ札紙は富士工業技術支援センターの協力のもと遠州織物の端材から生まれた再生紙を使用)。

- ・各事業者における製造工程の動画は、値札の QR コードから閲覧が可能。
- ・本プロジェクトを通して、遠州地域の幼稚園、こどもえん、小中学校、大学などにおける地域産業啓発の出前事業を実施し、棚田で採れた種の配布と栽培指導、商品制作の工程で生まれるハギレの配布を実施。